



風の学び舎、みんなの広場

瀬戸内町の歴史・風土が導く新しい学びと交流の拠点

豊かな自然の恵みを活かした空間、人のつながりの大切さや長い歴史・風土を身近に感じる環境、そんな小学校を実現するために、以下の3つを基本に設計を進めます。

1. 自然、人、文化をつなぐ古仁屋らしい場をつくる
2. いつも快適でイキイキした空間をつくる
3. まちの皆さんと一緒に楽しんでつくる

提案項目①、②、③、⑤

1. 瀬戸内町の歴史から学び「つなぐ」を大切にする

古くから大和と琉球をつなぐ結節点として発展し、様々な歴史や風習が入り混じること、独自の文化を形成してきた瀬戸内町は、「つなぐ」ということをとても大切にする町だと考えています。そこでこの町の教育拠点にふさわしい未来の小学校も、生徒・教師のつながりだけでなく、地域や幼・中・高との連携もとやすく、様々な人々や文化を未来に「つなぐ」ことを大切に場所にするべきだと考えました。



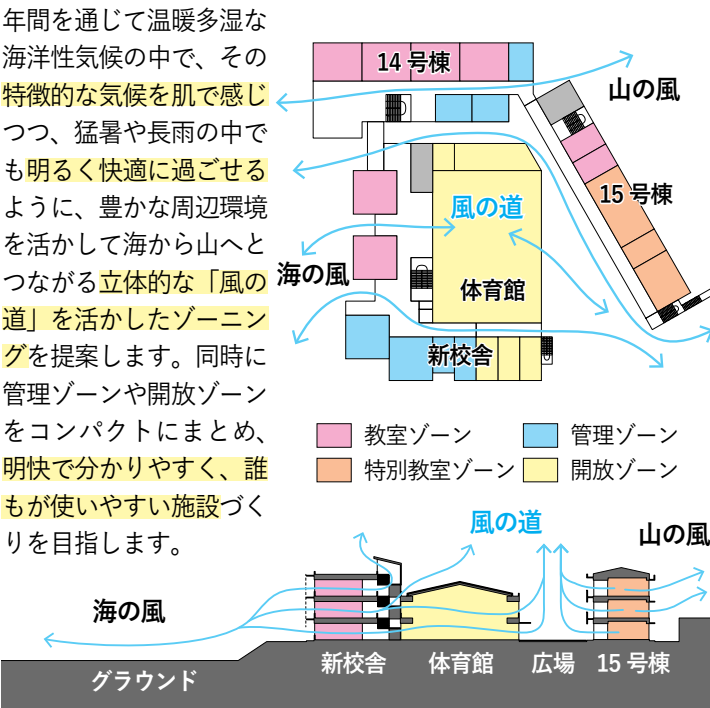
2. 周囲を「つなぐ」交流拠点としての配置計画

小学校の一部を開放エリアとして計画し、周囲との連携がとりやすい配置計画を提案します。「みんなの広場」を中心に構成するこの開放エリアは、休校時には地域施設のように誰もが気軽に利用できます。駐車場からもアクセスしやすく、新しい体育館や町民プール、既存の特別教室群、多目的スペースなど、大小様々な空間と機能をコンパクトに集約させることで、年中伝統行事や生涯学習の為の新しい交流拠点をつくりだします。



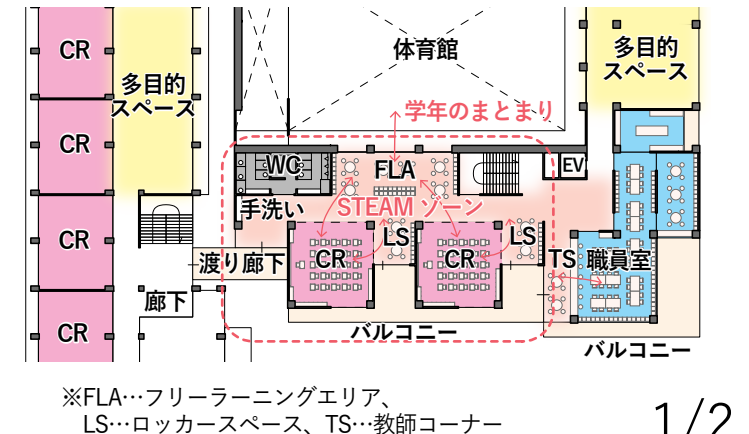
3. 光・風を取り込み、多様な交流を促すゾーニング

年間を通じて温暖多湿な海洋性気候の中で、その特徴的な気候を肌で感じつつ、猛暑や長雨の中でも明るく快適に過ごせるように、豊かな周辺環境を活かして海から山へつながる立体的な「風の道」を活かしたゾーニングを提案します。同時に管理ゾーンや開放ゾーンをコンパクトにまとめ、明快で分かりやすく、誰もが使いやすい施設づくりを目指します。



4. 個性を発揮しやすく多様な学びを支えるスペース

普通教室は学年のまとまりに配慮しつつ、グループ学習や個別学習等にも多目的に活用できるSTEAMゾーンを隣接して設けます。詳細な設え・使い方は先生方と議論を重ねて練り上げますが、場の設えから家具仕様まで、教室に留まらず、どこでも学び交流できる次世代の学習環境づくりを目指します。また体育館や多目的室、職員室との連携にもしっかり配慮し、様々な学び・交流に柔軟に対応しやすい、使いやすくイキイキとした学習空間を目指します。



※FLA…フリーラーニングエリア、LS…ロッカースペース、TS…教師コーナー

提案項目④

5. 多角的な視点と比較検討により最適な建替計画を提案

基本計画の建替案を基に、より現実的で効率的かつ様々な負担の少ない検討案を複数作成し、知見と経験に基づく様々な視点から比較評価を行うことで、最適な計画案を作成しました。その結果、**工事中の安全性や学びの継続に配慮し、工期短縮や学校運営の負担軽減、また工事エリアの狭さや将来工事への配慮等から、校舎と体育館を複合一体的に整備する建替計画案「複合案」が最も最適だと考えます。**

	①「分棟案」	②「仮設校舎なし案」	③「積層案」	④「複合案」
建物概要	2棟（4階+1階）	2棟（2階+1階）	1棟（3階）	1棟（3階）
延床面積	約3,060㎡	約2,810㎡	約2,900㎡	約2,910㎡
想定工期	①仮設新3ヶ月 ②既存解体10ヶ月 ③新築18ヶ月 ④既存解体8ヶ月 計39ヶ月	①校舎新築12ヶ月 ②既存解体10ヶ月 ③体育館新築12ヶ月 ④既存解体8ヶ月 計42ヶ月	①仮設新3ヶ月 ②既存解体10ヶ月 ③新築18ヶ月 ④既存解体8ヶ月 計39ヶ月	①仮設新3ヶ月 ②既存解体10ヶ月 ③新築18ヶ月 ④既存解体8ヶ月 計39ヶ月
工事の課題	工事ヤードが狭く施工管理が複雑で工事費が高くなる。既存校舎と近接し、騒音や振動の対策も必要。 ※仮設校舎は耐火仕様によるコスト増を避けるため、2階建てで計画。 ※工期は過休2日を想定した弊社過去実績により算出、アスベスト工事は無しで想定。	工事ヤードは広く施工性は良い。既存校舎との距離を確保し易く、騒音・振動対策は簡易となる。	工事ヤードは十分確保でき、施工性は比較的良好。既存校舎への騒音・振動対策も部分的で良い。	工事ヤードは十分確保でき、施工性は比較的良好。既存校舎への騒音・振動対策も部分的で良い。
凡例：	→ 生徒動線 → 給食搬入動線 → 車両動線 □ 工事区画 ▲ 工事出入口 ■ 新築 ■ 解体 ■ 工事ヤード - - - 防音パネル - - - タワークレーン			

提案項目③、⑤

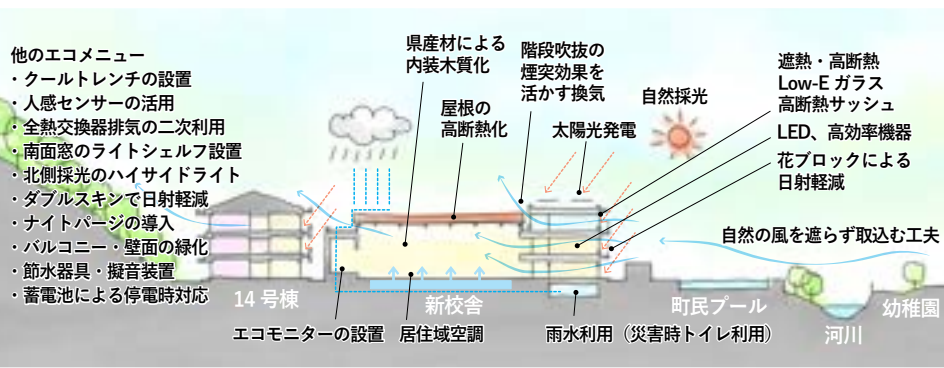
6. 避難所と教育空間が共存できるセキュリティ計画

自然災害の多い場所だからこそ、災害発生時でも**教育活動を止めない、避難所と教育空間の共存が可能な計画**を提案します。日常的に開放エリアとして地域利用を想定する体育館から多目的室までを、**段階的に区画可能な計画**にしておくことで、災害規模に応じて避難所として利用する範囲を柔軟に変更することが可能となります。また避難所開設時でも、**最低限必要な教育機能を維持できる構成**としておくことで、**早期の教育活動の再開も容易な計画**を実現します。



8. 人と自然の共生を学ぶことができる瀬戸内町のエコスクールをつくる

豊かな自然に囲まれる瀬戸内町だからこそ、**自然との共生を学べるエコスクール**が必要だと考えます。様々なエコメニューを費用対効果まで比較検討し、**省エネと創エネを効率良く組み合わせることで ZEB Ready 取得**を目指します。また同時に、「風の道」など建物形状を活かした環境対策も活用することで、機械や化石燃料に頼らなくても快適で、使用する児童や地域の方々にも**その仕組みが分かるような、環境教材としても活用しやすい次世代のエコスクール**を実現します。



7. 立地特性を考慮した構造と適材適所な材料選定

台風を始め自然災害が多いだけでなく、**塩害や運搬費の影響**も考慮し、建物の主構造は奄美大島内で一般的かつ十分な耐久性と実績もある**RC 造在来工法**とします。また大スパンとなる体育館の梁のみ鉄骨造とし、**隣接させて大きな広場を設けておくことで、十分な工事ヤードが確保できる施工性に配慮した計画**としています。また仕上材や家具についても、**県産木材をはじめ、島内で調達可能な建材を優先的に採用**することで、**コスト縮減に配慮すると同時に、地場産業との連携も積極的に図っていきます。**

